



キャラ作成向け利用ガイド

大学生・学部別ペルソナ集を「キャラクター構築資料」として使う方法

キャラクター作成で最も難しいのは、「設定を増やすこと」ではありません。本当に難しいのは、「この人物なら、こう動きそう」と感じさせることです。

例えば、

- ・年齢
- ・学部
- ・趣味
- ・恋愛経験
- ・口調

だけを並べても、人間は立体化しません。

読者や視聴者が人物を「存在している」と感じるのは、

- ・何に悩むのか
- ・何を恐れるのか
- ・どんな価値観を持っているのか
- ・どんな場面で感情が揺れるのか

まで見えてきたときです。

この大学生・学部別ペルソナ集は、そうした「人物の内側」を組み立てるためのキャラクター構築資料です。

この資料には、単なるプロフィールだけではなく、価値観、恋愛観、将来不安、性格的弱点、行動原理、人間関係の築き方などが含まれています。つまり、「この人物がどういう感覚で世界を見ているのか」を考えるための材料として利用できます。

特に大学生キャラクターは、創作の中で非常に使われやすい一方で、描写が単調になりやすい存在です。

理由は、多くの作品で、

- ・陽キャ
- ・陰キャ
- ・真面目
- ・チャライ

など、単純な分類だけで人物を作ってしまうからです。

しかし実際の大学生は、もっと曖昧で不安定です。

社交的でも孤独感を抱えていたり、自信があるように見えて将来を恐れていたり、論理的でも恋愛になると不器用だったりします。

キャラクターにリアリティが生まれるのは、そうした「矛盾」が入ったときです。

この資料は、その矛盾を作るために利用してください。



ペルソナ図鑑

また、この資料は「完成済みキャラクター集」ではありません。

重要なのは、「そのまま使わないこと」です。

例えば、

- ・価値観だけ使う
- ・恋愛観だけ使う
- ・将来不安だけ使う
- ・別学部同士を混ぜる
- ・男女特徴を交差させる

など、自由に組み替えて構いません。

むしろ、そのまま使用すると、どの作品でも似た人物になりやすくなります。

キャラクター作成で重要なのは、「現実を再現すること」ではなく、「現実らしく錯覚させること」です。

例えば、

- ・なぜその言葉を選ぶのか
- ・なぜ人を避けるのか
- ・なぜ距離を詰めるのか
- ・なぜ夢を語るのか
- ・なぜ不安を隠すのか

といった、「感情の理由」があるだけで、人物は急激に立体化します。

また、この資料は「主人公」だけではなく、「脇役」や「サブキャラクター」の強化にも役立ちます。

大学の友人、サークル仲間、元恋人、ルームメイト、ゼミ仲間など、短時間しか登場しない人物でも、「その人物らしい価値観」があるだけで、世界観に厚みが出ます。

さらに、この資料には、「弱点」や「不安」も含まれています。

創作初心者ほど、「魅力的なキャラクター」を作ろうとして、欠点を消しすぎる傾向があります。しかし、人間は弱さがあるから記憶に残ります。

進路への迷い、人間関係の不器用さ、自意識、価値観の揺れ、恋愛への慎重さなどがあることで、キャラクターは「設定」から「人間」に近づいていきます。

また、この資料自体は創作的要素を含んだ人物資料です。

実在の大学生を統計的に分析した資料ではなく、「こういう人物像はいそうだ」と感じられるリアリティを目指して構成されています。そのため、「現実の大学生は全員こうだ」と考えるための資料ではありません。

この資料は、「人物を固定するため」のものではなく、「人物を想像するため」のものです。

キャラクター作成で最も危険なのは、「設定だけで人物を書いた気になること」です。

人間は、肩書きでは動きません。価値観、不安、過去、距離感、弱さ、憧れによって動きます。



ペルソナ図鑑

この大学生・学部別ペルソナ集は、「大学生設定資料」ではなく、「若者キャラクターを立体化するための人物構築資料」として利用してください。